



■ビオトープ・サロン 生物多様性保全 ～様々な手法で進められる見える化～

本紙 090 の「生物の貢献 年 4700 億円」で花粉を運ぶ昆虫の貢献度を経済的に評価する記事を紹介しました。今回は、私たちの大量消費が知らない場所の野生生物に及ぼす影響の見える化の話題提供です。[エコロジカル・フットプリント(生態系を踏みにじった足跡)]が発表されて久しいですが、これに続き[生物多様性フットプリント]と呼ばれる手法で輸入商品の「足跡」が分析された記事の紹介です。(編集局)

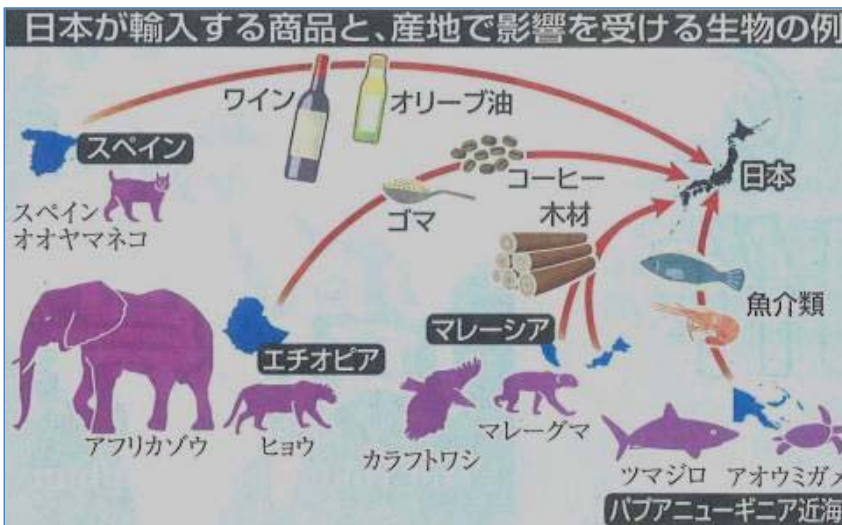
【生物多様性フットプリントとエコロジカルフット・プリント】

1. 日本の消費が動植物に打撃～792種の絶滅危惧種に影響～(徳島新聞 2017.02.03 より要約転載)

生物多様性フットプリントは、**エコロジカル・フットプリント**の考え方を拡張し、国際貿易を介した**生物多様性**へのインパクトの指標として新たに開発されたもので、様々な視点から研究が進められています。以下に、去る2月3日(金)の徳島新聞から、要約して紹介します。

「日本人が消費する食べ物や木材などの生産に伴い、世界各地で希少な動植物が減少しているとの分析結果を、信州大の金本圭一朗講師らがまとめ、日本の輸入は792の絶滅危惧種に影響を及ぼしていることが分かった。商品1万5千種、国連自然保護連合などのデータを使い約7千の絶滅危惧種を調べた。

日本の消費による影響が特に大きいのは東南アジアやオセアニアで、マレーシアでは森林伐採などでカラフトワシやマレーグマの棲み処が縮小した。日本の食卓にもなる魚や甲殻類の産地パプアニューギニア近海では、混獲によってサメの一種ツマジロやアオウミガメの生息数が減少していた。アフリカのエチオピア産のコーヒーやゴマは日本に多く輸入されているが、農地の開発でヒョウやアフリカゾウの生息地が圧迫されていた。スペインのワインやオリーブ油は日本でも人気だが、こうした農場に電気を供給するためのダム建設により、スペインオオヤマネコの生息数が減少している。」とのこと。

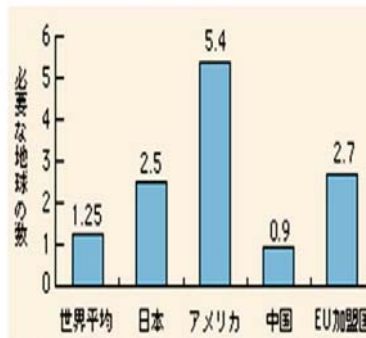


生物多様性フットプリントは、国境を越えた人間活動が自然の生態系に及ぼす影響を分かりやすく伝えるための指標。フットプリントは「足跡」の意味。日常的に消費されている食料などの原料はどこで生産されているかを調べ、現地の植物の生息にどのような負荷を与えているかを追跡する。先進国は、自分の国よりも大きな負荷を発生させている。海外の生態系に及ぼしている。消費者がより環境負荷の少ない商品を選ぶ際の目安にもなる。

今の暮らしは持続不可能



**地球の環境容量
再生許容範囲を
大きく超えた生活**



出典：エコロジカル・フットプリント・ジャパン/HP9版環境白書(環境省)

2. エコロジカル・フットプリント

EIC ネット環境用語集によると、「**人間活動により消費される資源量を分析・評価する手法のひとつで、人間1人が持続可能な生活を送るのに必要な生産可能な土地面積(水産資源の利用を含めて計算する場合は陸水面積となる)として表わされる。**」と解説されており、ビオトープと直接的に関わる指標と言えます。

左の図は、日本人の現在の暮らしを支えるためには国土面積の**15.4倍**の陸地や海域が必要なこと、地球上の人類が日本人と同様の生活をする、地球が約**2.5個**必要になること、諸外国との比較などが表されています。中国0.9となつていますが、2007年のデータでは**1.2個**で、世界平均は**1.5個**といずれも増加中です。

前々号の099に関し、ご意見をいただきました。自然と人の共存、今世紀のテーマかもしれませんね。(編集局)

【IHさん：九州福岡】170321 ビオトープニュース099の件

(1)ビオトープサロン～「めだかの里」の今について



20年間も管理していると生物の生息のみならず、管理運営者(人間)側の考えが、現場の環境を変えて行くのですね。里山の維持管理(伝統的農業や生物資源利用の循環型生活)によって、土地の環境は自然と人が共生できる高質な環境へと変化し、微調整によりながら自然環境が進化していく。ビオトープの認識を持たれた方々の基本路線さえ変わらなければ、人にとっても心地の良い環境を維持できる証明となっているのでしょうか。このまま、自然と人が共存できる空間が持続し発展していくと良いですね。この例を想像すると自然体験型のキャンプ場などが、この「めだかの里」のようなコンセプトで管理運営されイベントや広報などの情報発信ができると、キャンプ場の管理運営などの経営も成立するのではないのでしょうか？

(2)ビオトープサロン～「みつばちソーラー」の今について



ヒツジによる除草の成功例でしょうね。高速道路の路傍(のり面)や公園、住宅団地の緑地などで社会実験(同様の事例)が紹介されていますが、イマイチ成功しているようには見えません。メガソーラーは高いフェンスに囲まれた閉鎖空間のため、人との関わりがなく、安全性にも問題がないように思います。ヒツジの餌(草本)について春～秋のシーズン以外はどうな対策をとられているのか、お聞きできると良いのですが？また、メガソーラーの地面に配線されているケーブルなどへの危害はないのでしょうか。歯の鋭さを書かれていましたので、対策があるのでしょうか？…回答のチャンスがあるのなら宜しくお願いします。(電線管で保護されているでしょうし、かじるのは草の根元で表層部ですから、おそらく大丈夫でしょう？)

■ビオトープ・セミナー

資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施工部門の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問 101：次の文は、住宅団地における、地域の生物多様性保全に貢献する庭づくりにあたっての留意点を述べたものです。正しいものはどれですか。

- a. 団地には様々な住民がいるので、石積みを設ける場合は、トカゲなどが棲み付かないように、必ず練石積みにする。
- b. ヒヨドリやムクドリなどの野鳥の飛来を促すため、餌台を設け、ヒマワリの種やトウモロコシを、当番を決めて適時に給餌するとよい。
- c. 「害虫」と呼ばれる在来生物が捕食・被食関係を通じて増えすぎることがない、様々な生物が共存する生態系をつくり、殺虫剤は、原則、使用しないという考えが重要である。
- d. 解説版を設置し、生物多様性保全の意義をはじめ、庭を訪れた動物、その訪問がどのように意味をもつかなどを、写真などを使って、わかりやすく団地住民や地域の人々に伝える。

1. aとb 2. bとc 3. cとd 4. aとc 5. bとd

■前号 100 (計画部門の択一問題) 正答 [5]

河川に侵入した外来種に関する対策計画は、①河川環境に侵入した侵略性の高い外来種に関する対策計画の策定にあたっては、当該外来種の生態的特性、対策手法に関する情報を収集する必要があります。②ハリエンジュに関する対策としては、伐採しただけでは切り株から萌芽するので、重機等を用いて抜根する必要があり、河川上流の治山・砂防事業等でハリエンジュが利用されている場合は、供給源に対する対策も検討する必要があります。③オオバタクサに関する対策としては、見分け方を学習すれば、他の植物の芽生えと見分けることが比較的容易であることから、市民の協力を得るなど人員を動員して、芽生えの段階で選択的に除去する方法が有効です。④薬剤の使用は、他の野生生物や水質に悪影響を及ぼすおそれがあるので、使用の可否について、慎重に検討する必要があります。⑤侵略的外来種は取り残すと、それが元になり、翌年また分布が拡大していきます。このため、一年間で問題を決着できないため、対策計画はモニタリングを含め、戦略的・継続的な計画として立案する必要があります。

2級はどなたでも受験できます。四国の試験会場は徳島でしたが、受験者の減少に伴い継続が危うい状況です。毎年度の受験案内にご注意ください。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局【ご意見・お問い合わせは E-mail: kanv@nifty.com へ】【バックナンバーは URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com> から】